

6-1 市民の主体的な活動の支援と地域づくり活動の充実 事業費6億 590万円

財源	国のお金		施策実現のための 主な事業費	横手総合交流促進施設費	1億2,220万円
	県のお金			十文字環境改善センター費	1億 956万円
	市の借金	1億2,630万円		十文字西地区交流施設整備事業	8,597万円
	その他	1,170万円		地区交流センター費	7,920万円
	市のお金	4億6,790万円		その他	2億 897万円

市民が、主体的にまちづくりの主人公となって、さまざまな課題に対し、みんなで語り合い、助け合い、支え合うことによって、市民主体による特色あるまちづくりが進められていることを目指します

主な具体的取り組み事業

- ◆地域づくり支援事業 (3,044万円)
住民主体による地域の特性を活かしたまちづくりを推進するため、地域住民による自主的・主体的な地域づくり活動や地域課題の解決を図る活動を行う地域運営組織の形成を支援します。
- ◆町内会活動補助事業 (1,190万円)
住民自治の円滑な推進を図るため、自治会や町内会、集落等が行う地域づくり活動や備品整備に要する経費を支援します。
- ◆町内会館等建設補助事業 (1,000万円)
住民自治の円滑な推進を図るため、住民自治活動の拠点となる集会施設等の整備に要する経費を支援します。
- ◆地域おこし協力隊活用事業 (1,260万円)
地域外の人材を積極的に誘致し、地域おこし協力隊として地域産業や観光の振興、地域の魅力などの情報発信等の地域協力活動に従事してもらいながら、当市への移住・定着を図ります。
- ◆十文字西地区交流施設整備事業 (8,597万円)
十文字西地区館となりに農家高齢者創作館の機能をもつ施設を建設します。



地域運営組織形成支援事業の様子

6-2 男女が尊重し合う社会づくり

事業費 169万円

財源	国のお金		施策実現のための 主な事業費	ワークライフバランス推進事業	120万円
	県のお金			男女共同参画社会推進事業	49万円
	市の借金				
	その他				
	市のお金	169万円			

男女が互いを尊重しあいながら、家庭や職場、地域などの中で、一人ひとりが輝き、自分らしく生きられる社会が形成されていることを目指します

主な具体的取り組み事業

- ◆男女共同参画社会推進事業 (49万円)
市内における男女共同参画の促進を目的とした行動計画を推進するほか、意識啓発のためのイベントや研修会、女性が活躍できるセミナーの開催等を実施します。
- ◆ワークライフバランス推進事業 (120万円)
企業や団体の経営者・管理職と従業員それぞれに向けて、働き方改革やワークライフバランスなどに関する講演会・研修会を実施します。



ワークスタイル研修の様子

6-3 情報を共有する環境の整備

事業費 1億2,635万円

財源	国のお金		施策実現のための 主な事業費	行政情報発信事業	3,800万円
	県のお金			市政協力員事業	3,493万円
	市の借金			地域情報通信網管理運営費	2,706万円
	その他	1,740万円		コミュニティFM中継局運営費	1,249万円
	市のお金	1億 895万円		その他	1,387万円

市民と行政との情報共有が図られ、市政への関心が高まっていることを目指します

主な具体的取り組み事業

- ◆横手市情報発信戦略プロジェクト事業(385万円)
横手市情報センター機能を有効活用し、市民の皆さんと一体となった情報発信を行います。またフェイスブック、ツイッター、LINEなどのSNSを活用し、横手の魅力を全国に発信します。
- ◆地域情報通信網管理運営費(2,706万円)
光ケーブルを利用して情報通信格差を解消し、インターネット接続やテレビ視聴などができるようにしています。



市内の高校生たちが横手の魅力をPRするために制作したLINEスタンプ

6-4 市内外との交流連携の推進

事業費 2億7,830万円

財源	国のお金		施策実現のための 主な事業費	ふるさと納税PR事業	2億5,540万円
	県のお金	375万円		移住定住促進事業	779万円
	市の借金			ふるさと会支援事業	761万円
	その他	19万円		応援人口との関係深化事業	364万円
	市のお金	2億7,436万円		その他	386万円

市民が自分の住むまちに誇りを持ち、市の内外で活発に交流・連携の取り組みが行われることによって、地域に賑わいや活気が生み出されていることを目指します

主な具体的取り組み事業

- ◆ふるさと会支援事業(761万円)
首都圏在住の横手市出身者で構成されるふるさと会との交流や連携を通じて、交流人口の拡大や地域の活性化につなげます。
- ◆ふるさと納税PR事業(2億5,540万円)
ふるさと納税制度を通じて、地域の事業者育成や産業の活性化、横手市の知名度向上、横手ファンの拡大につなげます。
- ◆応援人口との関係深化事業(364万円)
横手応援市民学校「なべっこ遠足in東京」の開催や「いぶりがっこ農家応援事業」など横手の課題応援事業を企画・実施します。また、市の応援人口施策の今後の在り方について外部を交え再検討します。



横手応援市民学校「なべっこ遠足in東京」の様子

7-1 市民ニーズに対応した成果重視の行政運営の推進 事業費 14億 9,485万円

財源	国のお金	6,165万円	施策実現のための 主な事業費	情報システム運用管理費	2億 635万円
	県のお金	9,148万円		議員人件費	1億9,373万円
	市の借金			横手市長及び市議会議員選挙費	1億3,721万円
	その他	5,361万円		ネットワーク管理費	1億1,925万円
	市のお金	12億8,811万円		その他	8億3,831万円

行政評価制度の活用や行政改革の推進などにより、PDCAサイクルに基づいた成果志向の施策や事業が計画、執行され、最少の経費で最大の効果を上げられる、市民満足度の高い行政運営が行われていることを目指します

主な具体的取り組み事業

◆個人番号カード等交付事務費 (6,076万円)

マイナンバー制度及びマイナンバーカードに関する情報の提供の努め、市民のニーズに対応したマイナンバーカードの申請及び交付の方法により、カードの普及促進を図ります。

- ・窓口…庁舎で写真撮影を行い、職員がカード申請を代行します。
- ・事業所や各種団体…横手市内の事業所や各種団体等へ出張し申請の受付、交付を行います。カードの申請作業も職員が代行します。
- ・商業施設…商業施設へ出張し、写真撮影やカードの申請代行を行います。



商業施設でのマイナンバーカード出張申請の様子

◆証明書等コンビニ交付費 (683万円)

市が発行する住民票などの諸証明を「近くで簡単に」取得できるコンビニ交付サービスの普及促進を図ります。マイナンバーカードをお持ちの方は、市が発行する各種諸証明書を全国のコンビニエンスストアで取得できます。

7-2 財源確保と効率的・効果的な財政運営の推進 事業費 77億 563万円

財源	国のお金		施策実現のための 主な事業費	公債償還元金	62億8,418万円
	県のお金	1,644万円		財産経営推進計画実施事業	4億7,115万円
	市の借金	2億3,440万円		公債償還利子	3億1,293万円
	その他	2億4,352万円		ふるさと応援基金積立金	2億4,470万円
	市のお金	72億1,127万円		その他	3億9,267万円

限られた経営資源【ヒト(人材)・モノ(施設等)・カネ(財源)]を効果的、有効的に活用する継続的に安定した行財政運営が図られていることを目指します

主な具体的取り組み事業

◆財産経営推進計画実施事業 (4億 7,115万円)

人口や財源の減少に対応し、公共施設を適正な規模や機能に再配置することを目的として、横手市財産経営推進計画(FM計画)を策定しています。この計画に基づき、令和3年度は大鳥公園プール、旧十文字庁舎、旧幸福会館、旧睦合保育所などの解体工事を行います。また次年度以降に向けて、旧雄物川庁舎、旧たいゆう保育園の解体工事設計業務を行います。このほか、FM計画での再配置方針が「維持」となっている施設について、市と市民、さらに専門家も交えたワークショップを開催し、再配置の在り方や使用可能期間等の方向性を検討します。

◆大型公共施設整備事業 (1億 387万円)

横手体育館と横手市民会館の建て替えに関する専門の委員会の設置、建設候補地の地質調査や測量調査などを行い、具体的な検討を進めます。また、現施設のアスベスト含有調査を実施し、建て替え後に予定される解体計画の参考とします。

◆徴収総務費 (2,122万円)

市税等の納付がしやすくなるよう、口座振替の推進とともに納付機会の拡大を図ります。
・市税、介護保険料、後期高齢者医療保険料、保育料が全国のコンビニエンスストア、東北地方の郵便局でも納付できます。また、スマートフォンアプリ(PayPay、PayB、LINEPay)でも納付ができます。

施設の老朽化が進む横手体育館と横手市民会館について、令和7年度末までの建て替えを目指し検討を進めています。

令和2年度には、市民や専門家で構成された市民検討委員会からの提言や、庁内プロジェクトチームでの検討を経て、整備の必要性や考え方をまとめた基本構想を策定しました。

■ 横手体育館

横手体育館は、昭和54年3月に横手平鹿広域圏民体育館として建設されました。現在も横手市の中核的な体育館として、様々なスポーツ大会の開催や市民の健康増進に加え、種苗交換会をはじめとした大規模イベントの会場としての役割も果たしています。

しかし、観客席数の不足や駐車場の問題、建物の耐震性などの課題を抱えながら施設全体の老朽化も進み、早急な対策が必要です。

令和3年度は、建設候補地を絞り込むとともに、実現性を含めた具体的な機能や規模などを調査・検討し、基本計画の策定を目指します。



【基本構想における新横手体育館のコンセプト】

- ① 市民が日常的にスポーツ活動や健康づくりに親しむことができる体育館
- ② 様々な大会やイベントが開催されスポーツや文化の交流拠点となる体育館
- ③ 災害時の防災拠点となる体育館

■ 横手市民会館

横手市民会館は昭和43年6月に建設され、市民の発表や芸術鑑賞の場などとして多くの市民に利用されています。

建設から53年が経過し、県内で最も古い市民ホールとなった横手市民会館は、躯体そのものや設備の老朽化に加え、建物の耐震性、従来からの懸案事項であるアクセスや駐車場などの課題解決が強く望まれています。

令和3年度は、建設候補地を絞り込むとともに、実現性を含めた具体的な機能や規模等について調査・検討し、基本計画の策定を目指します。



【基本構想における新横手市民会館のコンセプト】

- ① 市民が集い、市民が主役となる舞台
- ② 機能性を重視した質の高いホール
- ③ シンプルで誰もが利用しやすく、市民に長く愛される施設

7-3 戦略的・計画的な人材育成と能力開発の充実 事業費 78億 318万円

財源	国のお金	1,143万円	施策実現のための 主な事業費	人件費	77億1,671万円
	県のお金	1億4,511万円		特別職人件費（三役等）	4,849万円
	市の借金			職員研修及び厚生費	2,466万円
	その他	7,190万円		特別職人件費（教育長）	1,241万円
	市のお金	75億7,474万円		その他	91万円

職員一人ひとりが、市民(お客様)の立場で考え、柔軟な発想や創意工夫、実践力向上を図り、市民ニーズに対応していることを目指します

主な具体的取り組み事業

◆厚生費 (2,095万円)

職員が心身ともに健康で職務に精励するとともに、家庭生活との両立が実現できるよう、職場健診やストレスチェックを行います。

◆職員研修費 (371万円)

職員一人ひとりの知識や能力を向上させ、全体の資質も向上するよう職員研修を実施します。



職員研修の様子

お知らせ

新型コロナウイルスワクチンの特設集団接種会場
での接種や個別医療機関での接種を行います

心臓・腎臓・肝臓病や血液疾患、免疫不全や血が止まりにくい病気の方などは、必ず事前に主治医を受診し、接種ができるか確認してください。アレルギーなどに不安がある方も、事前にかかりつけ医にご相談ください。

接種を受けるには

対象の高齢者施設に入所している方には、施設内で接種を行います。
その他の方は、市内4カ所の特設集団接種会場か、市内協力医療機関で接種を受けることができます。なお、接種を受けるには予約が必要です。
また、ワクチンは2回接種する必要があります。

【特設集団接種会場】

- ・イオンスーパーセンター横手南店
- ・平鹿生涯学習センター
- ・雄物川コミュニティセンター
- ・横手市役所十文字庁舎



予約・接種開始日は、新型コロナワクチンの供給状況により決定します。決定次第お知らせしますので、接種券と予診票は接種するまで大切に保管してください。